



禁煙ジャーナル

■発行人 一般社団法人 タバコ問題情報センター [代表理事・渡辺文学]

No. 319

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 2-1-4 九段セントラルビル 203

TEL: 03-3222-6781 FAX: 03-3222-6780

《郵便振替》00120-0-159803 【印刷】遠藤印刷 1部500円

「新型コロナ」と喫煙の関連は明確 政府・メディアは無視・隠ぺいするな！ ～前進あるのみ「反タバコ運動」～

新型コロナウイルス(COVID-19)の感染が世界的な規模で広がりを見せ、連日、メディアは日本と各国の発生状況や感染阻止・治療に向けた取組み、さらには、経済対策などを報じています。また、開催が懸念されていた東京オリンピック・パラリンピックは急速「延期」と決まり、それに向けた議論や関係組織の動向も注目を集めています。

こうした状況のなか、タバコ問題首都圏協議会代表の中久木一乗氏(歯科医師)が、喫煙者は新型コロナウイルスに感染すると重篤化しやすいという情報が、一部にしか伝えられていないという問題を取り上げ、政府・メディアを厳しく糾弾し、同時に、私たち「反タバコ市民運動」に携わる者の今後の、言わば“心得”について長文の寄稿を頂きました。厚く御礼申し上げます。(編集長・渡辺文学)

求められる科学的対応

タバコ問題首都圏協議会代表
中久木一乗



COVID-19(新型コロナウイルス感染)の拡大は世界的広がり発展し、経済界も巻き込んで、先が見えない状況だ。

各国の政治家も、初めは本当のことが分らず、慌て、怖れ、諦め、あるいは責任逃れだけに熱心な風にも見えたが、今や大忙しだ。

3月11日、WHOがついに、パンデミックと判断すると発表してから世界中で対策の強化が始まったが、勢いを増す感染の前に、まだ手探り状態と言える。

この流動的な時期に、このテーマで文章を書くのは、読者の目に届く頃には実情との解離が大きくなり、分が悪いが、我々が毎日、判断と対応に悩まされ続けている問題なので、3月23日正午の時点で、反タバコ問題の市民運動とCOVID-19について纏めてみた。

■中止相次ぐ各種イベント

2019年12月、中国の湖北省武漢で、新しい型のウィルスの感染が発表され、その後日本では2月初め「クルーズ船事件」が報道され、徐々に身近に感染問題が近寄ってきた。

2月下旬には全国で「3月2日より学校閉鎖」と発表され、毎日の通勤や各種会合参加について不安が増え急に論議が盛んになった。この脅威のウィルスは新型というだけあって、その性質・威力がよくわからないし、防御法も対処法も、治療法も分からないことが多いと言うことで、2月20日以降は、各種イベントの中止が相次いだ。

タバコのない世界を目指す活動家も、2月に入ってから、会議や、集会、学術大会などの開催可否について大いに悩むことになった。

そのころのメールでは「サクラが咲く前に、昨年の『桜を見る会問題』を話題から消したい、そして『モリ・カケの側屋(ソバヤ)問題』も忘れてほしい。……そんな人達の仕掛けた誇大報道かも知れない」という人もいた。

もっと極端に「デマだ。感染リスクは低く、受動喫煙による死亡者数の方が問題は大きい。タバコ勉強会は世のためにも開催すべきだ」と元氣よく主張する人もいた。

—* 1面からの続き—

「COVID-19の実態はそんなに怖くない。インフルエンザと同様であって、過剰な恐怖心だ」という論理的に？だが、元気一杯な意見もあった。

多くの医療関係者は「学会参加については、通常の交流であれば、感染を受けることはない」と信じつつも「誇大な報道により感染不安を持った患者さんたちの不安を招きかねない」と考え悩むことになった。

世界で蔓延していることは事実で、3月11日にWHOもパンデミックと判断した。

どうやら「COVID-19の感染拡大を大和魂で突破しよう」というのは無理なようだ。

■専門家会議の提言は

3月19日に日本政府の専門家会議が開かれ一定の考え方が示された。遅きに失した感もあるが「新型であり、分からないことが多かった」のだろう。また「各地区の状況に応じて対応してほしい」とは、現実的解決法であろう。

しかし、個々が判断するためには、医・科学的な情報が十分とは言えない。多くの感染経験を持つ中国や諸外国の参考データが、日本国民になぜ示されないのか？疑問だ。

19日の専門家会議の後で、日本のメディアも少し報道をするようになったが、役に立つ情報が少ない気がする。

タバコ問題の活動家から見ると「感染と喫煙に関しての情報」を殊更に避けていると思ってしまう。「COVID-19の感染拡大と、喫煙することとの強い関連性、及び喫煙室環境の危険性」については、WHOも発表したように、科学的理論ならびに臨床データとして明らかであるのに、日本政府はこれを無視し、マスコミも消極的報道に終わっていることは意識的な不作為と考えても不思議はないだろう。

■「正しく恐れよ」とは

不要不急の集まりはない。この時期、教育界も経済界も、医学界もみな年度替わりの時期でイベントも多い。必要だから会を開くのだが、問題はCOVID-19の感染拡大の危険性との優先順位だ。

しかし相手が良く分からないので判断しにくい。「むやみに恐れなくて良いが、正しく恐れよ」と言われてもよく分からない。

それでも19日の専門家会議の結果は、ある程度の指針を示してくれた。要約すれば「密集、密閉、密談を避けよ」とのことだが、これをどう生かすかは国民の責任として慎重な対応を求められた。

政府の発表を聞いても、イベントを開催したい考えと、開催中止の考えの葛藤は消えないどころか、タバコ問題の運動の重要性は増すばかりだ。

年間15,000人もが受動喫煙で死亡している問題の方がはるかに重要だと考える人が少なくない。

しかし、政府がこれ以上の正解をもっているとも思えない。今後は自分たちで道を選ぶべきだろう。全く動かなければ事故も少ないが、結果も少ない(マイナスもある)。

無暗に動けば事故も大きいかも知れないが結果も得られる。みんなで「多くの策と弊害と対処法を凡そでも考えた」うえで先に進みたい。その際、他の例が参考になる。マスコミには役立つ報道を期待したい。

■求められる科学的対応

確かに先の見えない世界を進むのは怖い。今後、COVID-19に自分が感染したり、日本人15,000人以上が死亡するかもしれない。一方「この機会に市民運動が下火になることを密に願っている？タバコ会社とそのお友達の口先に脅かされて、タバコ問題のイベントを控えるべきでない」という心情も理解できる。

しかしここは不安・不満を基にするのではなく、少ないながらも示された集いの開催条件を吟味しできるだけ科学的な対応を考えて、開催に踏み切る、または中止に踏み切るしかないだろう。

人類にとって久しぶりの地球的災難ともいえる事態への対応に明快な正解はないであろう。それを決めるのは会員であり、結局は個人個人の考えであろう。

国家とは自分達が構成して作ってるもの、国に国民の健康生活を提案する立場のタバコ問題の会である。皆で励まし支えてゆくのが皆さんに役立つ行為だろう。決まり文句のようによく耳にする「早く終息することを祈っています」は悪くないが、祈りだけでは済まないのは何千年の歴史が証明している。

■基本は免疫力ある体づくりを

自分と隣人が感染しないことが基本である。それには多くの知恵の中から自分なりの対処法を選び暮らすのが、不安と不満を胸に生きるより良い。

具体的な考え方を何人かに聞いてみた。基本は免疫力ある体で、タバコ、酒は無し。食事・運動は適度。会話・睡眠は多くということだろう。

以下を参考にさせていただきたい。

- ① 病態はいろいろで、感染者を判断できないことが多い。
- ② 検査法は良くても検査結果は不安定。判定結果を過信しない。
- ③ 誰が感染しているか、ほとんど分からないので人は皆、感染者と考える。
- ④ 電車・バスの中も部屋。感染する可能性は限りなくあると考える。



【日本禁煙学会 緊急声明！！】

**喫煙室は「濃厚接触」の場となる恐れがあります。
緊急に全ての喫煙所・喫煙室を閉鎖してください。**

■「濃厚接触」とは

「日本環境感染学会 COVID-19感染症対応ガイドライン」は、濃厚接触を①または②と定義しています。

- ① 新型コロナウイルス感染症患者の
 - 約2メートル以内で
 - 長時間（数分以上）過ごす
- ② 個人防護具を着用せずに、新型コロナウイルス感染症患者分泌物や排泄物と直接接触する（咳をかけられる、素手で使用済みのティッシュに触れるなど）

新型コロナウイルス感染症患者を（自分も相手も）マスクをせず、数分間2メートル以内で、咳にさらされながら診察した場合、新型コロナウイルス感染者との濃厚接触と判定され、2週間の自宅待機・健康観察が必要となります。

喫煙室は、互いにマスクをせず、2メートル以内で、平均5～6分滞在する場所ですから、もし、新型コロナウイルス感染の方がおられた場合、「濃厚接触」の状態に匹敵します。

■咳だけや無症状の人も

新型コロナウイルスに感染していても、発熱がなく、咳だけという方も少なくないと報告されています。また、無症状の人さえいます。

もちろん、喫煙室は閉鎖空間ではありますが、0.2m/secの流速が規定されています。しかし、喫煙所が混んでいる場合には、必ずしも流速が規定通りになっていないことが多いようです。

喫煙所・喫煙室は、濃厚接触はもちろん、これらの危害を引き起こす場所でもあります。この機会に閉鎖・撤去とすべきです。

新型コロナウイルス感染を広げないために、やれることはすべてやる必要があります。

緊急にすべての喫煙所・喫煙室を閉鎖することが重要と考えます。

■喫煙・受動喫煙が重症化リスク

さらに、喫煙や受動喫煙が、COPD（慢性閉塞性肺疾患）や肺や免疫力へのダメージなどからも、新型コロナ肺炎罹患や重症化のリスクとなっています。

喫煙者は、生涯非喫煙者よりもICU入院、レスピレータ装着、あるいは死亡のリスクが2.84倍になります。これはすでに我々が報告している通りで、主要メディアでも報道されています。

喫煙者にはこの機会に「禁煙」に踏み切ることをお勧めします。禁煙することでリスクは低減し、やがて非喫煙者と同等になるでしょう。

2020年3月20日

【日本禁煙学会理事長 作田 学】



—*2面からの続き—

- ⑤ 特に危険な場所には行かない。（狭い空間に大勢、不良換気の場所、密集至近会話の場）
- ⑥ 60歳未満、非喫煙、病気のない人は重症化が少ないので注意して参加可。60歳以上、喫煙者、病気のある方は、会合には遠慮してもらう。
- ⑦ 心身の健康管理——運動と会話を欠かさない。
mailは安全で有用。広い安全域を出あるき、密集しない(または対面しない)会話を楽しむ。

■おわりに

地球上に存在する、数限りないウイルスに対抗するのに、隔離やワクチンや薬剤では追いつかないであろう。

COVID-19に対し、とりあえず恐れ、避ける方法は有益だが、情報を整理すると通常の体力と抵抗力がある人は、従来の普通のインフルエンザ程度の症状の後に回復できるようだ

となると、もしもの時は軽く相手をして免疫を獲得することが、末永く地球上に生きるすべではないか？それには、緊急時に備えて、普段からタバコ煙をはじめ有毒物を避け、免疫力増強に努めておくことが重要だろう。

【なかくき・かずのり＝歯科医師／タバコ問題を考える会・千葉顧問】



禁煙に絶好のチャンス

～新型コロナの危険性増す喫煙～

ジャーナリスト 石田 雅彦



新型コロナウイルス感染症が広がり、改正健康増進法が全面施行され、喫煙者には耐えがたい状況が続く。

この際、ひと思いにタバコをやめてみたらどうだろうか。

■タバコは感染リスクを上げる

人間の臓器の中で、皮膚以外に外気に直接触れるのは口と鼻、喉、気道、そして肺だ。特に気道は、外気から入り込む病原菌に対する強いバリア機能を持っている。

タバコの煙は、この気道のバリア機能に悪影響を及ぼす。これはタバコの煙に含まれている有害物質が、気道の粘膜細胞に関係する遺伝子の作用を減退させるためと考えられている。

同様の研究は山のようにあるが、ようするにタバコを吸うと病原菌に対するバリア機能にダメージが及ぼされ、呼吸器系の感染症にかかりやすくなり、呼吸器系の合併症のリスクを上げ、症状が重く治りにくくなるというわけだ。

このことは、おそらく新型コロナウイルス感染症についても言えるだろう。実際、喫煙は感染症のリスクを高め、受動喫煙により子どもが深刻な感染症に苦しんでいる。タバコ煙にさらされたマウスはインフルエンザにかかりやすく重篤化し、MERS（中東呼吸器症候群）でも喫煙者が重症化したという報告がある。

■禁煙にもってこいのチャンス

一方、受動喫煙防止を目的にした改正健康増進法が4月1日から全面施行された。

飲食店の多くは禁煙になり、喫煙所もタバコ煙の害が及ばないように施設管理者に求められるようになった。

喫煙者には厳しい状況になっているが、逆に考えれば禁煙するにはもってこいのチャンスともいえる。禁煙は難しいと思われがちだが、一気にやることで必ず成功できる。

タバコを吸い始めて1箱でニコチン依存症になってしまう反面、ニコチンという薬物に対する渴望自体は、3日ほどでほとんどなくなる。ニコチンによる身体的な影響は短い期間でなくなるが、喫煙行動への依存、つまり心理的な依存をどう克服するかが問題だ。

■禁煙外来と心理的サポート

禁煙を決めてからは、自分に対してタバコを吸いたくなったら、代わりに何か別のことをすればいい。タバコへ向かった気を紛らわせるわけだ。

例えば、タバコを吸いたくなったら水を飲む、ガムを噛む、窓を開けて外気を呼吸する、ネコと遊ぶ、『サピエンス全史』を読む、スクワットをする……なんでもいい。

パートナーの協力を得るのも効果的だろう。健康に関する行動の変化には、社会的な関係が強く影響するからだ。

本心から禁煙を決意した後、再びタバコを吸ってしまうのではないかという不安感を乗り越え、禁煙の継続に自信を持つようになってからも喫煙者の気持ちは揺れ動く。

そこで重要になるのは、医療関係者と特に家族からの精神的なサポートで、依存症からの回復には周囲の支えがあることが大切だ。

ニコチンという薬物依存には、禁煙外来などの医療機関で処方されるニコチン代替薬、ニコチンガムやニコチンパッチによる禁煙補助薬といったニコチン代替療法が有効となる。

■生活習慣・環境変えれば成功

心理的な依存を断ち切るためには、継続的な心理サポートやカウンセリングも必要だ。禁煙治療でも医師によるアドバイスが効果的とされ、ニコチン代替療法と心理的なアドバイスの併用が禁煙の継続率を高めることが知られている。

ライターや灰皿などのタバコにまつわる道具を周囲から取り除き、環境的にも喫煙をイメージするものを排除し、再喫煙のトリガーになることを防ぐことも必要となる。

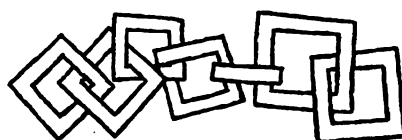
タバコの害を自覚し、ニコチン依存には禁煙外来へ行くなどしてニコチン代替療法を受診し、心理的な依存には、家族などからのサポートを得て生活習慣や環境を変えていくことができれば必ず成功する。

■全てのニコチン製品との決別を

この時、加熱式タバコに切り替えると、ニコチン依存が続いてしまい、再び紙巻きタバコに戻ってしまう危険性がある。低タール低ニコチンのタバコも逆効果だ。

ニコチンという薬物の依存はすぐに消える。心理的な依存も克服可能だ。この際、加熱式タバコを含めたタバコをやめてみたらどうだろうか。

【いしだ・まさひこ＝横浜市立大学大学院】



「SDGs経営が未来を開く」 目標掲げ競う時代へ

—JTを企業リストから外せ—

禁煙ジャーナル編集長 渡辺 文学



日本経済新聞2019年12月2日号朝刊に、表記のタイトルの記事が、見開き2頁にわたって大きく掲載されていた。

リード文を紹介したい。—『2019年は日本企業にとって「SDGs（持続可能な開発目標）経営元年」といっていい。貧困や環境問題など国際社会

が直面する課題の解決へ、本格的な取り組みが始まっている。（中略）。SDGs経営で未来を開く力がある企業を、消費者や投資家、地域社会が評価する時代の幕が上がっている』—。

そして本文では「SDGsは金融市場からの強い要請でもある。ESG（環境・社会・企業統治）を重視した投資の広がりだ。ESGに優れた企業こそ、長期的に付加価値を生み続けられるとの期待が背景にある。（中略）「売り手、買い手、世間が満足する『三方よし』は日本企業の多くに流れる精神だ。SDGsは将来世代を犠牲にしない。地球規模で考えるという意味で、三方よしの時間軸と地平軸を広げたものといえる」として、星五つに「キリンホールディングス」「コニカミノルタ」「リコー」の3社があり、星四つ半には「資生堂」「ソニー」「サントリー」「イオン」「花王」「富士フイルム」など31社が入っている。

しかし、この31社の中に、この「SDGs」や「ESG」に全く反する企業の名前があり、驚いた。その会社の名前は「日本たばこ産業」である。

「売り手」の日本たばこ産業（JT）は満足しているであろうが「買い手」の喫煙者は、ニコチンという薬物の依存性によって「吸わされている」のであり、数多くの世論調査では、70%以上の喫煙者が内心「やめたい」と思いながら吸っていることが明らかとなっている。同時に「世間が満足する」ことは全くなく、JTは国際会議で「公害企業」「犯罪企業」「死の商人」と位置づけられており、SDGsとは、全く相反する企業として厳しい追及が行われているのが実態なのである。

日本経済新聞は「SDGs経営」の企業リストから、直ちにJTを外すべきではないか。

■日経企業イメージ調査

今年になってさらに日本経済新聞社と日経広告研究所は「第32回企業イメージ調査」をまとめている。それによると、ビジネスパーソンを対象に、日本で活動する672社のイメージを多角的に聞い

たところ、総合評価でトヨタ自動車は19年連続でトップとなっている。また病種別では建設、食品、不動産などの評価が高まったとしている。さらに大型スポーツイベントに関連した企業が目立っているのも特徴だという。

ところで、今回の調査項目で「地球環境に気を配っている」という項目があり、トヨタ自動車がトップ、2位にプリジストン、3位にコスモ石油、4位にホンダ、5位住友林業、6位日産自動車、7位住友ゴムと続いてきたが、8位に花王とJTが肩を並べているのには驚きだった。

タバコ葉の栽培のために多数の農薬を使い、その過程で人体被害を与え、製品となった後には数多くの疾病の原因となり、能動喫煙・受動喫煙の死者は、十数万人にもものぼる。

また、喫煙者がポイ捨てする吸い殻は道路を汚し、街の美観を損ね、河川・海を汚染しているタバコ会社が、どうして「地球環境に気を配っている」企業のベスト10社に名を連ねているのか。

数多くの企業の中から、JTを8位に選んだ“ビジネスパーソン”の選定基準の甘さには、呆れて物が言えない。

この「地球環境に気を配っている」には、一般個人の部門もあり、ここでもJTは28位となっており、サントリーや味の素TOTO、ソニー、クボタなどよりも上位となっていた。

■SDGsに逆行するJTの新戦略

JTはまた、タバコ関連新製品のイメージ戦略で消費拡大を狙っている。これは「SDGs」が目指している方針に完全に逆行する行為だ。その欺瞞的なコピーは以下の通りである。（要旨）

—「受動喫煙対策によって飲食店などでの喫煙ができなくなり、肩身が狭くなる喫煙者。しかし電子タバコなどの新しいムーブメントの浸透により無碍に否定するのではなくタバコとの多目的な付き合い方が見直されてきている印象もあります。そんななか『タバコは決して悪いことだけじゃない』『タバコは文化である!』という前向きな気概を感じとることができるプロジェクトをJTが最近頻発しているのはご存知でしょうか？アートプロジェクトの『Rethink Art Collection』もそのひとつで、現在イラストレーターのNoritakeとのコラボレーションが展開されています。プロジェクトの開催期間は3月31日まで。『Ploom TECH』の愛用者やNoritakeファンはぜひこの機会に立ち寄ってみてください。—

ニコチン依存症の患者をこれ以上増やそうとしポイ捨てタバコで街や河川・海を汚している公害企業が、どうしてSDGsの企業リストの上位に名前を連ねているのか、判断基準の甘さに苦言を呈したい。

【わたなべ・ふみさと（ぶんがく）】

コバケンさんとの出会い

世界禁煙デー記念 第九演奏会を前に

歯科医師 藤澤幸三郎



コバケン（小林研一郎）さんは、2012年7月に上野文化会館の音楽監督に就任されました。

ただ引き受けて戸惑ったのは、会館の職員と楽団員の喫煙でした。職員はともかく、楽団員も喫煙者が多く、

タバコが大嫌いなコバケンさんは、この問題の解決策に悩みました。

ある晩、目白の行きつけの寿司屋（寿司たつ）で大将にこの悩みを話したところ「近所にタバコに詳しい先生がいるから紹介しようか」（ため口）と言われ、ぜひにとのことで夜半、私の自宅に電話がありました。

「コバケンさんがタバコに関して困っていて相談したいことがあるんだけど、先生今から来られる」、そこで「今から行ってあげる」と答え寿司たつに向かいました。お話を伺って「それなら良い考えがあります」と私の診療所から日本タバコフリー学会の園はじめ先生に頂いた「イエローカード」を取ってきて「受動喫煙防止法」を説明しました。

■役にたった「イエローカード」

文化会館の職員、楽団員全員を集めて、この受動喫煙防止法のカードを見せながら「多数の者が利用する施設を管理する者、つまり私小林研一郎が健康増進法25条に従って上野文化会館の建物内、敷地内を利用する人を受動喫煙から守る法律上の義務があるので、明日から建物内、敷地内を禁煙にします」と宣言すればそれで事足りますと説明したところ「ああ良かった」と大変喜ばれ、早急に会館内・敷地内禁煙を実現しました。

それ以来、奥様の小林櫻子さん（オーケストラプロデューサー）と一緒に新宿区に受動喫煙防止を申し入れたり、お付き合いが続いています。

■5.31 サントリーホールが空いていた

今回の「世界禁煙デー記念 第九演奏会」は、4月1日から「東京都受動喫煙防止条例」が施行されましたが、これは今までのザル法とは異なり、従業員が一人でもいれば完全禁煙となります。つまりバイトの大学生、高校生、従業員は受動喫煙から守られます。

このことを踏まえ、昨年8月15日に患者さんであるコバケンさん、櫻子さんに渡辺文学さんをお招きしてホテルで会食しながら東京都の受動喫煙防止法施行を説明し、ダメ元でこの条例を応援する演奏会をお願いしたところ、コバケンさんがにっこ

り笑って「私やりたいです」とおっしゃって快諾して下さいました。

隣の席で櫻子さんがソロバンを弾いて（現在はノートパソコン）サントリーホールの空き状況を調べたところ、奇跡的に「世界禁煙デー」当日の夜が空いており、また予算立ても簡単にされ「先生出来ますわよ」と、演奏会が実現の運びとなりました。

ぜひ、禁煙運動関係者の一人でも多くの方々のご参加を呼びかけさせていただきます。

【ふじさわ・こうざぶろう＝ジャパンオーラルヘルス学会常任理事・受動喫煙防止部会委員長】

《世界禁煙デー記念 第九演奏会》

【日時】2020年5月31日（日）開演/19:30

【会場】サントリーホール 大ホール

【主催】コバケンとその仲間たちオーケストラ

【共催】日本禁煙学会

【後援】東京都医師会/アンチエイジング歯科学会/ジャパンオーラルヘルス学会/日本財団禁煙推進学術ネットワーク/日本歯科大学/東京都歯科医師会

【全席指定】S席=5,000円/A席=4,000円

宮城県議会 喫煙室廃止へ

宮城県議会は3月13日、議会棟に唯一残る喫煙室を4月に廃止する方針を決めた。行政庁舎を原則禁煙とする改正健康増進法の施行が4月に迫る中、存続は時代に合わないと判断した。

これまでの協議で喫煙する議員は、分煙を徹底した上での存続を求めていたが、非喫煙者を中心に受動喫煙への懸念を示す意見が根強く、存続は難しいとの結論に至った。

議会棟の喫煙室は昨年6月、煙が廊下に漏れ出さないように室内の空調設備を調整。以前から排煙装置が設けられ、現状で法定基準を満たしているが、喫煙する議員からも「良い印象を持たれていない。これ以上の議論継続は厳しくなった」とあきらめの心境が語られている。

喫煙室の存廃を巡っては、日本禁煙学会が昨年11月、議会棟内の全面禁煙を求める要請書を提出。2月定例会で、会派間の協議を重ねていた。

宮城県はすでに2010年7月、県庁舎内を全面禁煙とした。仙台市議会は4月以降に議会棟の喫煙室の廃止方針を決定している。

【yahooニュースから】

※この問題では「禁煙みやぎ」の山本蒔子代表と県会議員の普間進氏などの熱心な取り組み、そして全国各地からのメールや手紙などが大きな力となって今回の「廃止」に繋がったと思います。（編集部）

《メディア・ウオッチング》

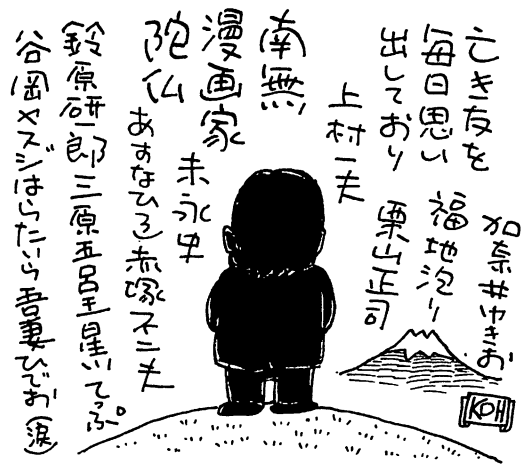
■2/22『読売』（夕）「喫煙はリスク」。新型コロナウイルスによる感染症について、日本禁煙学会は21日、喫煙やCOPDが重症化する要因になると発表した■2/22『しんぶん赤旗』「タバコフリー五輪宣言」。禁煙医師連盟学術総会の内容（①「タバコフリーオリンピック」宣言②加熱式たばこ規制にかかわる政策提言を紹介■2/24『沖縄タイムス』（投書＝小6女子）「タバコやめて長生きしてね」。「私は、病気になってほしくないと思いたばこの値段を上げて、気軽に吸えなくする方がよいと思います」から始まり「タバコをやめることが、その人の命も周りの人の命も守ることだと思います」で終わる、純真・清らかな心で訴えた良い投書。屁理屈をこねて吸い続ける、汚れた心の大人たちにぜひ読ませたい（笑）■2/26『しんぶん赤旗』「在日外国人の見た日本のタバコ問題」「違和感連発 3人の発言」。禁煙医師連盟が都内で開いた学術総会の際の発言を紹介。「日本では人権という言葉が『タバコを吸う権利』として喫煙者のために使われる」など興味深々の発言多数■2/28『朝日』[緩和ケア医のがん情報編]「小さな傷で済む手術も」。食道がんの原因や治療法を専門家に取材。内容は「喫煙や飲酒は、喉頭がんや咽頭がんなどのリスクも高める」■3/9『日経』「健康重視の企業 卒煙促す」「採用の条件『禁煙』が登場」。企業の「喫煙者排除」の動きが今年にはさらに広がりそうとして、SOMPOひまわり生命、ファイザーなどを紹介■3/10『朝日』[健康・医療フォーラム2020]「認知症予防へ外に出よう」。東北大加齢医学研究所瀧靖之教授の講演をまとめたもの。「たばこを吸うと肺の中の酸素と二酸化炭素を交換する「肺胞壁」というところが壊れてしまう。体が酸欠になり、脳にも体にもよくない」と解説■3/11『朝日』[医療]「禁煙の映画館で『3次喫煙』？服や髪に残る有害物質で」。米独の研究グループがドイツの映画館の1室で室内の空気を分析。「有害物質の濃度を受動喫煙の濃度に置き換えると、ホルムアルデヒドであれば、たばこ1本分、ナフタレンは10本分に相当していた」などという内容。聖路加国際大学院大西一成准教授のコメント「完全禁煙の空間であっても3次喫煙が起こりうる」■3/12『日経』（首都圏版）「サブスクの屋外喫煙室」「月額700円、都内5カ所」。イベント・企画運営のグッドモーニングスは4月から定額課金方式の屋外喫煙室を都内に設置。記事本文には「『非喫煙者に迷惑を掛けたくない』と考える喫煙者が多かったという」の記述。「愛煙家」は死語になったか（笑）■3/12『産経』（投書）「マナー教育こそ子供に必要」。公園の利用者を見て「吸い殻をまき散らす若い男性、飲食後のごみを置いて立ち去る男性…あきれ

ます」今、子供たちに必要なのは人に迷惑をかける生活の教育ではないでしょうかと結ぶ■3/13『愛媛新聞』（加藤正隆氏）「感染と重症化喫煙にリスク」。中国・武漢の入院患者の分析では「喫煙が重篤化の大きな要因」と指摘する報告を紹介。①喫煙は「吸い口を持った手を口元に持っていく」一まるで「感染実験」②喫煙所はたばこ煙、加熱式たばこのエアロゾル、喫煙に伴うせき、くしゃみなどの飛沫が充満する極めて危険な濃厚接触場所と指摘。「禁煙の啓発と支援・治療、喫煙所の閉鎖、廃止する対策が望まれる」と時宜にかなった提言■3/14『日経』（都内版）「東京都医師会が『4点のお願い』」。尾崎治夫会長が①無理せず自宅で休む②まず電話で相談を③喫煙者は禁煙を④要介護高齢者への2次被害を考えて、を示したという内容■3/17『産経』「喫煙所ゼロ拡大 主要自治体33%」。敷地内全面禁煙を実現した主要自治体（121団体）は、産業医大の調査によれば、平成30年度末の17自治体（14.1%）から41団体（33.9%）に増加したという内容。同大・姜英講師のコメント「法改正の効果が表れている」■3/18『読売』「喫煙所割れる存廃」「広さ3倍 新宿駅に来月」。尾崎治夫会長のコメント「天井やフィルターがなく、受動喫煙防止の観点では構造上、不十分だ」「設置期限を設定し、その間に路上喫煙やポイ捨てを根絶させる取り組みを進めるべきだ」■3/19『産経』「『やばはやめてお定め守って』」。東京・足立区が喫煙ルールとマナーの周知徹底を促す動画や横断幕を作成、公開したという内容。区の担当者のコメント「受動喫煙防止条例が施行されることを忘れてしまっている人も多いと思う。動画を見て思い出してもらえれば」■3/20『産経』「公園で一服⇒苦肉の喫煙所復活」「改正健康増進法来月から全面施行」。岡山市、岩国市、熊本県運転免許センターを取材。①厚労省のコメント「受動喫煙をなくすため、適切な対応をお願いしたい」②禁煙学会作田理事長「喫煙所を設置するなら、休憩時間だけの解放や、看板で禁煙を啓発するといった工夫が必用」■3/20『しんぶん赤旗』「改正健康増進法が来月施行」「受動喫煙防止へ前進」「自民議連の抵抗うけ例外規定」。改正法の問題点について、フリーライター・石田雅彦氏「屋内全面禁煙にすれば、何もする必要がないのに、喫煙室を設けると表示や換気が必要になる」「各地の飲食店に聞くと、行政から全面施行に伴う通知が届いているはずなのに、知らない人が多い。違反すると最高50万円の罰金もある。あちこちでトラブルが発生しないか心配」「無煙たばこは喫煙者にニコチン依存を続けさせ、禁煙させないような役割を果たす。喫煙者を減らし、受動喫煙による健康被害を防ぐという法の趣旨に反している」。【氷飽健一郎】

漫筆

先月号の続きです。中国の武漢で発生した新型コロナウイルスだ。おさまるところか世界中に広がりつつある。先月号には習近平氏の来日はストップした方がと書きましたがその通りになりました。習近平氏も「今はマズイ」と思ったのでしょうか。しかし習氏とは関係なく来日(?)したコロナの方は日本に広がりつつある。コロナがではなく、コロナとは知らずに罹患した方々が動くからです◆これを書いている今、北海道の方にポツポツと出ているようですが、やはり風邪の一種なのでしょう。皆様方はどうされているか知りませんが、ぼくは動かないことにした。ようするに家でジッとしているだけです。まあ漫画家という仕事がそういう仕事で、それをもう50年も続けてきたのですから今までと変わら変わりません。なにしろ今度の病気の日本の出発点(?)となった横浜に住んでいますからどうしても気を使ってしまう。近所の酒場で軽く一杯というのもダメですね。疑心暗鬼のような人達が集まっている所ですから咳をただけでも睨まれてしまうでしょう◆というわけで、もっぱら家飲み、家テレビだ。といっても今のテレビに老人が見て面白いものなどありません。ぼくが毎日見ているのはテレビ東京のお昼の外国映画だけです。ほとんど見たものばかりだ。というのは昔、ぼくは映画好きの漫画家として、月に一度の新作映画の試写会に招待されていたのでした。懐かしいあの「日曜洋画劇場」の淀川長治先生にお会いしたのもこの時でした。そして今やぼくと同じくらいの「あの人は今？」となってしまった「お杉とピーコ」と知り合ったのもこの場です。うーんいかなあ、新型コロナウイルスの話をしていただけなのに、話がコロコロと変わっ

てしまった。まあこれもコロナのせいということにしておきます(笑)◆しかし、ぼくにとって「不幸中の幸い」といえるのが年齢ですね。それが75歳です。これは前にも書いたかもしれませんが、ぼくが勝手に決めた自分の寿命なのです。というのはぼくが尊敬する三人の師匠方だ。推理作家の都筑道夫先生、ギャク漫画の赤塚不二夫先生、そして落語立川流の立川談志師匠だ。御三人とも75歳でした。もちろん並んだといっても歳だけのことですが、それだけでも並びたいものと長い間思い続けていたのです。それがようやくかないました。何かホッとして、それこそいいコロナとして危ないのではないかという気もしますが(笑)◆それにしても自分の長生きにつくづく驚いています。これも前に書いたと思いますが、漫画家は短命が多い。福井英一先生は30歳ソコソコで、上村一夫先生は40歳ソコソコで、そして谷岡ヤスジ氏は50歳ソコソコで、さらにはらたいら氏と漫画の神様手塚治虫先生も60歳でしたから。南無漫画家陀仏。【高信太郎】



無煙賛歌

コロナ禍は世界に広がり死者増える
免疫強化はまず禁煙だ
認知症脳の萎縮は避けられぬ
加齢早めるお酒とタバコ
4月からタバコが吸えぬお店増え
これで安心家族の笑顔
映画館三次喫煙起こってる
ドイツの調査で濃度が高い
新卒の社員採用本格化
優先順位は吸わない人だ
文里

【雑記帳】新型コロナウイルスが世界的な広がりをみせて、メディアは終日この問題を報じ、「モリカケ問題」も「サクラ問題」も、どこかに行ってしまった感があります◆安倍首相は皮肉なことに、このコロナ事件に救われて、ますます「やっている感」でのテレビ会見や、国会答弁で息を吹き返したかに思われます◆しかし、オリンピックはついに「延期」のやむなしに至りました。私は5年前「タバコ病を無くす横浜裁判応援団ニュース」(2015.1.15)の中で「5年という歳月を考えたときに、福島原発がどうなっているか、関東大震災はこないか、自衛隊の海外派遣でテロの危険性はないかなど、無事に東京五輪を迎えることが出来るのか」というコラムを書いていました。まさか「新型コロナ」までは予想できませんでしたが…◆「吸い殻拾い」が3月25日現在347回目となり、拾ったタバコの吸い殻は21,752本となりました。また、タバコの他にも、空き缶、ペットボトル、紙くず、ガムやアメの小さな包み紙なども毎日拾っており、中でもコンビニのレシートが目立っています。そこで、セブンイレブン、フ

ファミリーマート、ローソンの大手3社の社長に、タバコの吸い殻とごみの写真を送り「ポイ捨て禁止キャンペーン」を要請する手紙を送りました。果たして誠意ある回答が来るかどうか、見守りたいと思います。(文)